

V 飼料作物

1. アカクローバ

(1) タイセツ (系統名 北海6号) 1990年
 登録番号: (北海道) クローバ類北海道第4号
 (農水省) アカクローバ農林3号
 (種苗法) 第2932号

来歴 本品種は、1974年に農林水産省北海道農業試験場において「サッポロ」の3年目生存株から稔実率の高い個体を選抜し、相互交配後笑気ガスで染色体を倍加し、その後代から育成した4倍体品種である。1986年から各種の試験を行い、1990年に優良品種となった。

特性概要

1. 4年間合計乾物収量は北海道平均で「サッポロ」より12%多収で、特に多雪地帯で多収を示す。また、3・4年目乾物収量が「サッポロ」対比123%であり、永続性に優れている。
2. 開花始は「サッポロ」より平均して2日遅く、早生に属する。
3. ウイルス病、菌核病、茎割病、うどんこ病には「サッポロ」より強く、輪紋病、さび病、そばかす病には「サッポロ」並でやや強く、黒葉枯病には「サッポロ」より弱い。

4. 小葉は「サッポロ」より大きく、莖も太い。莖数は「サッポロ」より少なく、葉色は濃く、葉斑はより鮮明である。草丈は、1番草で「サッポロ」より高く、2・3番草では「サッポロ」より低い傾向を示し、倒伏は1・2番草で「サッポロ」よりやや多い。
5. 早春の萌芽は「サッポロ」より平均して2日早い。萌芽、春の草勢、再生は「サッポロ」より優れイネ科牧草との混播適性は「サッポロ」並である。
6. 耐寒性は「サッポロ」よりやや劣るが「レッドヘッド」「ハヤキタ」より強く、耐雪性は「サッポロ」より強い。越冬性はほぼ「サッポロ」並である。
7. 乾物率は「サッポロ」より1~2%低く、粗蛋白含有率は「サッポロ」よりやや多く、ADF含有率は「サッポロ」並である。

栽培適地と奨励態度

北海道一円及び本州中部以北の高冷地に適応する。栽培利用上の注意は、イネ科牧草と混播で採草利用する。凍害の恐れのある少雪地帯ではチモシーと混播し、越冬前までに十分な莖葉を展開できるように年2回刈りとする。

試験場名	品 種 名	乾 物 収 量 (kg/10 a)					同左比 (%)	粗タンパク質			試験年次
		1年目	2年目	3年目	4年目	合 計		1番草	2番草	3番草	
北海道農試	タイセツ	586	1,143	1,091	1,182	4,002	118	14.5	18.1	20.7	1986~1989
	サッポロ	562	1,089	871	857	3,380	100	14.6	17.7	19.5	
	レッドヘッド	647	1,061	875	759	3,343	99	15.1	17.8	21.8	

注) 粗タンパク質は乾物中の%で示し1987年の値である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 48-51(1990)。

(2) ホクセキ (系統名 北海8号) 1990年
 登録番号: (北海道) クローバ類北海道第5号
 (農水省) アカクローバ農林4号
 (種苗法) 第2935号

来歴 本品種は、1974年に農林水産省北海道農業試験場が「サッポロ」の3年目生存株から稔実率の高い個体を選抜し、20母系を育成した。その後代母系より選抜・育成した品種で、1986年から各種の試験を行い、1990年

に優良品種となった。

特性概要

1. 4年間合計乾物収量は「サッポロ」を100として北海道平均で101であるが、3・4年目乾物収量は「サッポロ」対比106であり、「サッポロ」より永続性に優れている。
2. 開花始は「サッポロ」より平均して1日遅く、早生に属する。
3. ウイルス病、うどんこ病は「サッポロ」より強く、

菌核病、茎割病、輪紋病、さび病、そばかす病黒葉枯病にはほぼ「サッポロ」並の罹病度を示す。

4. 小葉の幅が「サッポロ」より小さく、葉斑はより鮮明で、茎は「サッポロ」より細く、茎数は「サッポロ」並、葉色は「サッポロ」より濃い。草丈は1番草は「サッポロ」並かやや低く、2・3番草では「サッポロ」より低く、倒伏は1・2番草で「サッポロ」よりやや多い。
5. 早春の萌芽はほぼ「サッポロ」並で、萌芽性は「サッポロ」より良好、春の草勢は道北・道央で「サッポロ」

より良好であるが、道東では「サッポロ」より劣る。再生性・越冬前草勢は「サッポロ」並とみられる。イネ科牧草との混播適性は「サッポロ」並である。

6. 耐寒性は極強～強で「サッポロ」よりやや強く、越冬性は概ね「サッポロ」並である。
7. 乾物率、飼料成分含有率はほぼ「サッポロ」並である。

栽培適地と奨励態度

全道一円及び本州中部以北の高冷地に適する。栽培上の注意は、イネ科牧草との混播で採草利用する。

試験場名	品 種 名	年間乾物収量 (kg/10 a)					同左比 (%)	4年目/2年目比 (%)	試験年次
		1年目	2年目	3年目	4年目	合 計			
北海道農試	ホクセキ サッポロ	558	1,102	933	876	3,469	103	80	1986~1989
		562	1,089	871	857	3,380	100	79	
根釧農試	ホクセキ サッポロ	201	1,067	1,070	820	3,158	99	77	1986~1989
		203	1,079	1,047	853	3,181	100	79	
北見農試	ホクセキ サッポロ	467	918	718	646	2,749	102	71	1986~1989
		432	998	704	569	2,702	100	57	
天北農試	ホクセキ サッポロ	372	844	827	687	2,730	104	81	1986~1989
		335	852	801	647	2,634	100	76	

注) 試験場名の北海道は農林水産省北海道農業試験場である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 51-53(1990)。

(3) **メルビィ (原名 Start) 1990年**

登録番号: (北海道) アカクローバ準輪第4号

来歴 本品種は、ベルギーの Rijksstation voor Planteverdelinng社が、「Violetta」及び在来種の6栄養系から家系選抜により育成し、1980年にベルギーの登録品種となった。日本にはホクレン農業協同組合連合会が導入し、1987年より各種の試験を行い、1990年に優良品種となった。

特性概要

1. 1番草の開花始は「サッポロ」並の早生である。3番草の開花は「サッポロ」より少ない。
2. 乾物収量は、1年目は各試験地とも「サッポロ」より低収であったが、2年目は「サッポロ」並ないし「サッ

ポロ」より多収となり、3年目は各試験地とも「サッポロ」並となった。

3. うどん粉病には「サッポロ」並かやや強く、モザイク病には「サッポロ」より強い。茎割病に対しては「サッポロ」より弱く、さび病の発生も多い。
4. 草丈は「サッポロ」並かやや高い。
5. 倒伏は「サッポロ」と同程度かやや少ない。
6. 越冬性、早春の草勢は「サッポロ」よりやや優れている。越冬前の草勢も「サッポロ」並かやや優れる傾向がみられる。

栽培適地と奨励態度

全道一円に適する。栽培利用上の注意は、採草用として利用する。

試験場名	年間乾物収量 (kg/10a)				標準品種「サッポロ」比 (%)				試験年次
	1年目	2年目	3年目	合計	1年目	2年目	3年目	合計	
北海道農試	469	1,237	1,162	2,868	93	107	135	113	1987~1989
中央農試	444	1,314	875	2,633	93	103	144	111	
北見農試	463	1,083	1,010	2,556	89	100	120	104	
根釧農試	173	928	878	1,979	95	105	109	105	
天北農試	510	1,070	876	2,556	93	100	114	103	
新得畜試	466	1,182	783	2,431	90	120	126	114	
滝川畜試	403	1,402	1,232	3,037	82	96	105	97	
全道平均	418	1,174	988	2,580	90	104	120	107	

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 71-72(1990)。

(4) スタート (原名 Start) 1990年
登録番号: (北海道) アカクローバ準輪第5号

来歴 本品種は、チェコスロバキアのOseva社が育成した品種で、ホクレン農業協同組合連合会が導入し、1987年から道内各地で試験を行い、1990年に優良品種となった。

特性概要

1. 1番草の開花始は「サッポロ」より2~3日早い早生である。1・2番草の開花程度は「サッポロ」より多いが、3番草ではやや少ない。
2. 乾物収量は、1年目は「サッポロ」並ないし「サッポロ」より低収であったが、2・3年目は「サッポロ」より多収となり、3か年合計では、天北・滝川で「サッ

ポロ」並で、その他の場所では「サッポロ」より約10%多収であった。特に1番草刈取り後の再生が良好で、2番草で顕著に多収であった。

3. 耐病性は、うどん粉病には「サッポロ」並かやや強く、茎割病には「サッポロ」並である。
4. 草丈は、1・3番草は「サッポロ」並であるが、2番草は「サッポロ」より5~15cm高い。
5. 倒伏は「サッポロ」と同程度かやや多い。
6. 越冬性・早春の草勢は「サッポロ」より優れている。越冬前草勢は「サッポロ」並である。

栽培適地と奨励態度

全道一円に適する。栽培利用上の注意は、採草用として利用する。チモシーと混播する場合は再生の良い品種を用いる。

試験場名	年間乾物収量 (kg/10a)				標準品種「サッポロ」比 (%)				試験年次
	1年目	2年目	3年目	合計	1年目	2年目	3年目	合計	
北海道農試	481	1,293	1,044	2,819	95	111	121	111	1987~1989
中央農試	475	1,371	738	2,584	99	107	121	109	
北見農試	505	1,176	1,015	2,696	97	108	120	110	
根釧農試	186	979	911	2,076	102	110	113	111	
天北農試	506	1,059	895	2,460	92	99	104	99	
新得畜試	481	1,128	740	2,349	93	114	119	110	
滝川畜試	420	1,545	1,245	3,210	86	106	106	103	
全道平均	436	1,222	941	2,599	94	108	114	107	

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 73-75(1990)。

(5) エムアールワン (系統名 MR-1-83) 1990年
登録番号：(北海道) アカクローバ準輪第6号
(種苗法) 第3644号

来歴 本品種は、三井東圧株式会社が病害抵抗性、冬枯抵抗性、永続性、草勢等を選抜形質とし、国内外の品種を母材とした3サイクルの集団選抜法により育成した。1987年より「MR-1-83」の系統名で各種の試験を行い、1990年に優良品種となった。

特性概要

1. 1番草の開花始は「サッポロ」より1日程度早い早生である。開花程度は、1番草では「サッポロ」より多いが2番草では少ない。
2. 乾物収量は場所間差がみられ、3か年合計で根釧・天北で「サッポロ」より低収、滝川で「サッポロ」並、その他の場所では「サッポロ」より多収であった。2

年目から3年目にかけての収量低下の程度は、根釧以外では「サッポロ」より少なく、永続性は「サッポロ」よりやや優れている。年間収量に対する各番草の構成比率は「サッポロ」より2番草でやや低く、3番草でやや高い傾向がみられる。

3. 耐病性は、うどん粉病に対しては「サッポロ」より強く、モザイク病にも強い。茎割病は「サッポロ」並である。
4. 草丈は各番草とも「サッポロ」並である。
5. 倒伏は「サッポロ」並かやや少ない。
6. 越冬性は「サッポロ」よりやや優れている。早春の草勢は「サッポロ」並かやや優り、越冬前草勢は「サッポロ」並である。

栽培適地と奨励態度

根釧地域を除く全道一円に適する。栽培利用上の注意は、採草用として利用する。

試験場名	年間乾物収量 (kg/10a)				標準品種「サッポロ」比 (%)				試験年次
	1年目	2年目	3年目	合計	1年目	2年目	3年目	合計	
北海道農試	467	1,243	1,084	2,794	92	107	126	110	1987~1989
中央農試	490	1,250	755	2,495	102	98	124	106	
北見農試	543	1,118	936	2,597	104	103	111	106	
天北農試	504	992	869	2,365	92	93	101	96	
新得畜試	522	1,010	711	2,243	101	102	115	105	
滝川畜試	437	1,462	1,206	3,105	89	101	102	100	
全道平均	494	1,179	927	2,600	97	101	113	104	

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 75-77(1990)。

(6) テトリ (原名 T E T R I) 1993年
登録番号：(北海道) アカクローバ準輪第7号

来歴 本品種は、オランダのMommersteeg International B.V.が育成した四倍体品種で、ホクレン農業協同組合連合会が導入し、1990年から各種の試験を行い、1993年に優良品種となった。

特性概要

1. 開花期は「サッポロ」より0~2日遅く、「タイセツ」と同時期であり、早生に属する。開花程度は「タイセツ」より多く、「サッポロ」並である。
2. 耐倒伏性は「タイセツ」より優れ、越冬性は道東地域では「タイセツ」並で、早春の草勢は道東地域で旺

盛である。再生程度と越冬前草勢は「タイセツ」より旺盛である。

3. 病害抵抗性は、茎割病は「タイセツ」と同程度に強く、うどんこ病は「タイセツ」並かやや弱い。
4. 収量性は、道東地域で「タイセツ」より多収、永続性は道東地域で「タイセツ」並、乾物率は「タイセツ」に比べ2・3年目で全体としてやや高い傾向にあり、競合力は「タイセツ」より強い。

栽培適地と奨励態度

道東地域に適する。栽培上の注意は、採草利用とし、2番草の生育が旺盛なのでチモシーと混播するときは注意する。

試験場名	年間乾物収量 (kg/10a)				標準品種「タイセツ」比 (%)				試験年次
	1年目	2年目	3年目	合計	1年目	2年目	3年目	合計	
北海道農試	528	1,099	732	2,359	97	100	73	89	1990~1992
中央農試	566	1,125	386	2,075	91	93	46	78	
天北農試	318	893	750	1,961	106	88	91	92	
滝川畜試	594	1,160	1,043	2,796	93	87	86	88	
新得畜試	491	1,010	843	2,344	114	109	106	109	
北兄農試	491	1,205	1,119	2,822	101	109	114	109	
根釧農試	312	1,171	1,234	2,717	109	109	112	111	
道央道北平均					97	92	74	87	
道東平均					108	109	111	110	

参照 1) 北海道農政部編, 平成5年普及奨励ならびに指導参考事項, 33-35(1993)。

(7) マキミドリ (系統名 SB-R-8603) 1993年
登録番号: (北海道) アカクローバ準輪第8号
(種苗法) 第4845号

来歴 1982年に雪印種苗株式会社が、「ハミドリ」から
茎葉病害が少なく永続性の良好な個体を選抜しA集団と
した。1981年には「ハミドリ」「サッポロ」「Arlington」
を材料に、うどんこ病幼苗選抜を実施し、さらに茎葉病
害が少ない個体を選抜しB集団とした。本品種はこれら
A, Bをもとに母系選抜により育成された二倍体品種で
ある。

特性概要

1. 開花期は「サッポロ」より0~2日遅く、早生に属
する。萌芽は「サッポロ」並かやや優れ、越冬性も並

かやや優れる。

2. 耐倒伏性は「サッポロ」並かやや弱く、再生程度は
「サッポロ」並かやや旺盛である。
3. 病害抵抗性は、うどんこ病は「サッポロ」より強く、
茎割病は「サッポロ」と同程度で強く、菌核病は「サッ
ポロ」に比べ、北農試, 中央農試でやや多く、新得畜
試ではやや少なかった。
4. 収量性は「サッポロ」に比べ多収で、特に2番草割
合が高い傾向にある。
5. 永続性は「サッポロ」並、競合力も「サッポロ」並
である。

栽培適地と奨励態度

北海道全域に適する。栽培利用上の注意は、採草で利
用する。

試験場名	年間乾物収量 (kg/10a)				標準品種「サッポロ」比 (%)				試験年次
	1年目	2年目	3年目	合計	1年目	2年目	3年目	合計	
北海道農試	549	1,157	772	2,478	99	123	120	116	1990~1992
中央農試	527	988	527	2,042	82	108	102	98	
天北農試	319	1,013	753	2,083	110	110	103	107	
滝川畜試	712	1,402	1,233	3,347	114	113	104	110	
新得畜試	507	1,059	748	2,314	97	108	98	102	
北兄農試	487	1,146	1,028	2,624	87	106	116	104	
根釧農試	298	1,196	1,134	2,628	98	107	97	102	
全道平均	486	1,137	885	2,502	98	111	106	106	

参照 1) 北海道農政部編, 平成5年普及奨励ならびに指導参考事項, 35-40(1993)。

2. シロクローバ

(1) エспанソ (原名 エспанソ) 1988年

登録番号：(北海道) シロクローバ準輪第4号

来歴 本品種は、イタリアのExperimental Institute of Fodder Cropが、イタリアLodi地方の在来種の永年草地から得られた母材より循環選抜法により育成した。三井東圧化学株式会社が導入し、1985年から各種の試験を行い、1988年に優良品種となった。

特性概要

1. 開花期は「カリフォルニアラジノ」と殆ど変わらない。ラジノ型で、小葉が大きく、花柄も長く、現在普及している品種の中で最も巨大型であるが、ほふく茎の密度は低い。
2. 越冬性は2年目に中央、天北で劣ったほかは「カリ

フォルニアラジノ」並で、早春の草勢は良好で再生力も旺盛である。

3. 菌核病には「カリフォルニアラジノ」よりやや弱いが、そばかす病にはやや強い。
4. 収量は単播・混播ともに「カリフォルニアラジノ」を上回り、多収である。
5. オーチャードグラスとの混播で、マメ科率は全般的に高いが、50%を大きく上回することは少なく、混播適性は良好である。
6. めん羊放牧条件下で、収量・マメ科率とも「カリフォルニアラジノ」より低下した。

栽培適地と奨励態度

北海道全域に適する。栽培上の注意は、採草用としてオーチャードグラスとの混播で利用する。

試験場名	品 種 名	草 丈 (cm)			乾 物 収 量 (kg/10 a)				同左比 (%)
		1985年	1986年	1987年	1985年	1986年	1987年	合 計	
北海道農試	エ ス パ ン ソ	28	41	31	356	928	579	1,863	110
	カリフォルニアラジノ	23	34	28	318	863	507	1,688	100
中央農試	エ ス パ ン ソ	-	-	-	546	805	1,083	2,434	108
	カリフォルニアラジノ	-	-	-	495	872	882	2,249	100
北見農試	エ ス パ ン ソ	-	-	-	366	794	631	1,791	115
	カリフォルニアラジノ	-	-	-	342	684	533	1,559	100
根釧農試	エ ス パ ン ソ	34	34	37	281	645	662	1,588	105
	カリフォルニアラジノ	30	29	32	287	602	618	1,507	100
天北農試	エ ス パ ン ソ	-	-	-	153	577	618	1,348	103
	カリフォルニアラジノ	-	-	-	158	593	555	1,306	100

注) 成績は単播試験成績で、試験場名の北海道は農林水産省北海道農業試験場である。

参照 1) 北海道農務部編、昭和63年普及奨励ならびに指導参考事項、51-54(1988)。

(2) ソーニャ (原名 ソーニャ) 1988年

登録番号：(北海道) シロクローバ準輪第5号

来歴 スウェーデンのWeibullsholm Plant Breeding Instituteが反復集団育種法により育成した品種である。母材としては1949年播種の試験圃から204個体を得て、草型・生産性などにより47個体を選抜し、1955年にこれらの相互受粉種子(F₁)を得た。その後F₂、F₃、F₄と草型や生産性並びに採種性などについて選抜が繰り返され、1963年に125選抜個体の相互受粉種子F₅を得て育種を終えた。日本へは三井東圧化学株式会社が輸入し、1985年

から各種の試験を行い、1988年に優良品種となった。

特性概要

1. 開花時期は「ミルカ」、「フィア」と殆ど変わらず、コモン型で、小葉の大きさは中くらいで、草丈は「ミルカ」、「フィア」より高く、ほふく茎の密度は高い。越冬性は「ミルカ」、「フィア」並かやや優れている。
2. 北見、根釧、新得でそばかす病が発生したが、罹病程度は「ミルカ」と同程度かやや少ない。
3. 収量は、単播・混播ともに「ミルカ」、「フィア」を上回り多収である。
4. オーチャードグラスとの混播で、マメ科率の変動は

少なく、混播適性は良好である。

5. めん羊放牧条件下で、収量・マメ科率とも「フィア」より高く推移したが、マメ科率が30%以上となることはほとんどなく、放牧適性も良好である。

栽培適地と奨励態度

北海道全域に適する。栽培上の注意は、放牧・採草用としてイネ科牧草との混播で利用する。

試験場名	品種名	草 丈 (cm)			乾 物 収 量 (kg/10 a)				同左比 (%)
		1985年	1986年	1987年	1985年	1986年	1987年	合 計	
北海道農試	ソ ニ ャ	17	26	26	264	750	482	1,496	112
	フ イ ア	15	25	25	222	700	419	1,341	100
中央農試	ソ ニ ャ	-	-	-	329	900	803	2,032	123
	フ イ ア	-	-	-	391	689	572	1,652	100
北見農試	ソ ニ ャ	-	-	-	290	627	533	1,450	109
	フ イ ア	-	-	-	244	612	475	1,331	100
根釧農試	ソ ニ ャ	21	23	24	179	551	590	1,320	110
	フ イ ア	17	20	21	184	474	540	1,198	100
天北農試	ソ ニ ャ	-	-	-	120	643	534	1,302	116
	フ イ ア	-	-	-	117	599	405	1,121	100

注) 成績は単播試験成績で、試験場名の北海道は農林水産省北海道農業試験場である。

参照 1) 北海道農務部編, 昭和63年普及奨励ならびに指導参考事項, 54-57(1988)。

(3) マキバシロ (原名 マキバシロ) 1991年

登録番号: (北海道) クローバ類移合第6号

(農水省) シロクローバ農林合2号

来歴 本品種は、混播適性・永続性・種子生産性・放牧適性に優れる品種の育成を目標に選抜された8栄養系による合成品種である。1971年から1973年にかけて、海外導入品種60を散播条件で特性評価し、30品種を選抜した。1973年に、ここから1193個体を選抜、個体植えて特性を検討し108個体にしほり、さらに8栄養系を選抜した。1975年に合成第1代種子、1976年に合成第2代種子を採種した。1976年から1979年にかけて「東北9号」の系統名で系統適応性検定試験を行い、1980年「マキバシロ」の名前で農林登録された。道内では、1988年から北海道農業試験場他4場所で各種の試験が行われ、1991年に優良品種となった。

特性概要

1. コモン型の中の大型に属し、小葉は「ソーニャ」より大きく、草丈は高い。
2. 越冬性は北農試・新得・北見・根釧では「ソーニャ」並、天北ではやや劣り、耐寒性は「ソーニャ」と同等

で評価は中である。耐病性は、モザイク病とそばかす病については「ソーニャ」と明確な差はない。

3. マメ科とイネ科の合計収量は、天北・新得では「ソーニャ」並、北農試・北見・根釧では「マキバシロ」がやや多い。シロクローバ収量は天北・新得で「ソーニャ」並、北農試・北見・根釧では多収であった。乾物マメ科率は、1年目は「ソーニャ」より低いが、各場所とも2年目の途中から「ソーニャ」を上回り、マメ科冠部被度は、最初は「ソーニャ」並か低いが、3年目には「ソーニャ」を上回った。

4. オーチャードグラスとの混播では、3年目に入るとマメ科が抑圧される傾向にあるが、「マキバシロ」は「ソーニャ」に比べやや高い収量を示す。チモシーとの混播では、特に、根釧で3年目に入ってシロクローバの収量が高くなり、全体的にチモシーが抑圧されたが、「マキバシロ」は「ソーニャ」に比べてチモシーを抑圧する傾向が強かった。放牧条件下でも生育は良好で、放牧適性は良い。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適する。栽培上の注意は、イネ科牧草との混播で放牧利用する。

試験場名	試験区	1988年		1989年		1990年		3年間合計		試験年次
		収量	比 (%)	収量	比 (%)	収量	比 (%)	収量	比 (%)	
北海道農試	マキバシロ区	460	96	1,225	103	992	117	2,678	106	1988~1990
	ソーニャ区	481	100	1,194	100	846	100	2,521	100	
天北農試	マキバシロ区	448	95	770	95	743	113	1,959	101	1988~1990
	ソーニャ区	471	100	807	100	656	100	1,931	100	
根釧農試	マキバシロ区	138	118	557	105	613	103	1,308	105	1988~1990
	ソーニャ区	117	100	532	100	597	100	1,247	100	

注 1) 試験成績はマメ科・イネ科合計乾物収量(kg/10a)である。
 2) 北海道農試と天北農試はオーチャードグラス, 根釧農試はチモシーとの混播である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成3年普及奨励ならびに指導参考事項, 27-29(1991)。

3. アルファルファ

(1) マヤ (原名 Maya) 1990年

登録番号: (北海道) アルファルファ準輪合第7号

来歴 本品種は, フランスのDesprez Florimond社が育成した20系統からなる合成品種で, ホクレン農業協同組合連合会が導入し, 1987年から試験を行い, 1990年に優良品種となった。

特性概要

1. パーティシリウム萎ちょう病に対して抵抗性であり, 開花は「ソア」, 「キタワカバ」より早く, 「リュテス」より遅い。
2. 萌芽期は「ソア」, 「リュテス」並で「キタワカバ」より遅く, 萌芽良否は「ソア」並で「リュテス」よりやや優れ, 「キタワカバ」より劣る。

3. 早春の草勢は「ソア」, 「リュテス」よりやや優れ, 「キタワカバ」よりやや劣る。越冬前の草勢は「ソア」より優れ「リュテス」よりやや劣り, 「キタワカバ」よりやや優れる。

4. そばかす病に対しては「ソア」, 「リュテス」, 「キタワカバ」よりやや高い抵抗性を示す。

5. 耐倒伏性は「ソア」, 「リュテス」, 「キタワカバ」より優れ, 草丈は「ソア」, 「リュテス」, 「キタワカバ」より高い。

6. 乾物収量は「ソア」よりやや高く, 「キタワカバ」並かやや低い。

栽培適地と奨励態度

全道一円に適する。栽培利用上の注意は, 採草利用を主体とする。

項目	品種名	北海道農試	中央農試	北見農試	根釧農試	天北農試	新得畜試	滝川畜試	試験年
2年目 乾物収量	マヤ	98	105	100	100	103	100	93	1988
	リュテス	89	96	93	78	96	87	87	
	ソア	92	92	101	84	96	92	95	
	キタワカバ	1,024	1,505	1,018	662	1,210	825	1,337	
3年目 乾物収量	マヤ	102	106	80	93	88	92	93	1989
	リュテス	92	104	79	74	81	80	87	
	ソア	75	87	89	85	87	94	95	
	キタワカバ	1,330	1,382	864	676	1,333	1,041	1,423	

項目	品種名	北海道農試	中央農試	北見農試	根釧農試	天北農試	新得畜試	滝川畜試	試験年
3カ年 合計 乾物収量	マヤ	100	106	93	96	95	96	92	1987~1989
	リュテス	91	100	87	78	91	84	83	
	ソア	85	92	97	84	93	94	96	
	キタワカバ	2,780	3,368	2,378	1,576	3,109	2,179	3,108	

注) 「キタワカバ」は実数(kg/10a)で、その他は「キタワカバ」対比(%)である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 58-60(1990)。

(2) レーシス (原名 Resis) 1990年

登録番号: (北海道) アルファルファ準輪第8号

来歴 本品種はデンマークのA/SL, Daehnfeldtが、集団選抜法により育成した。ホクレン農業協同組合連合会が導入し、1987年から各種の試験を行い、1990年に優良品種となった。

特性概要

1. パーティシリウム萎ちょう病に対して抵抗性であり、開花は「ソア」より早く、「キタワカバ」よりやや早く「リュテス」より遅い。
2. 萌芽は「ソア」よりやや早く「リュテス」並で、「キタワカバ」よりやや遅い。萌芽の良否は「ソア」並で「リュテス」よりやや優れ、「キタワカバ」よりやや劣

る。

3. 早春の草勢は「ソア」、「リュテス」よりやや優れ、「キタワカバ」並である。越冬前草勢は「ソア」、「キタワカバ」より優れ、「リュテス」よりやや優れる。
4. そばかす病に対しては「ソア」よりやや高い抵抗性を示し、「リュテス」、「キタワカバ」並である。
5. 耐倒伏性は「ソア」、「キタワカバ」より優れ「リュテス」よりやや劣る。草丈は「ソア」、「リュテス」、「キタワカバ」より高い。
6. 3カ年合計乾物収量は「ソア」より高く、「キタワカバ」並かやや低い。

栽培適地と奨励態度

全道一円に適する。栽培利用上の注意は、採草利用を主体とする。

項目	品種名	北海道農試	中央農試	北見農試	根釧農試	天北農試	新得畜試	滝川畜試	試験年
2年目 乾物収量	レーシス	111	96	106	93	102	102	99	1988
	リュテス	89	96	93	78	96	87	84	
	ソア	92	92	101	84	96	92	100	
	キタワカバ	1,024	1,505	1,018	662	1,210	825	1,337	
3年目 乾物収量	レーシス	103	103	88	92	89	91	88	1989
	リュテス	92	104	79	74	81	80	87	
	ソア	75	87	89	85	87	94	95	
	キタワカバ	1,330	1,382	864	676	1,333	1,041	1,423	
3カ年 合計 乾物収量	レーシス	106	100	97	92	99	97	94	1987~1989
	リュテス	91	100	87	78	91	84	83	
	ソア	85	92	97	84	93	94	96	
	キタワカバ	2,780	3,368	2,378	1,576	3,109	2,179	3,108	

注) 「キタワカバ」は実数(kg/10a)で、その他は「キタワカバ」対比(%)である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 61-62(1990)。

(3) アロー (原名 Arrow) 1990年

登録番号：(北海道) アルファルファ準輸合第9号

来歴 本品種はアメリカのNickerson American Plant Breeders Inc.が育成した品種で、60栄養系からなる合成品種である。三井東圧化学株式会社が導入し1987年から試験を行い、1990年に優良品種となった。

特性概要

1. パーティシリウム萎ちょう病に対しては「リュテス」以上の抵抗性があり、開花は「ソア」、「キタワカバ」並で、「リュテス」より遅い。
2. 萌芽は「ソア」、「リュテス」よりやや遅く、「キタワカバ」より遅い。萌芽の良否は「ソア」並で、「リュテス」よりやや優れ「キタワカバ」より劣る。

3. 早春の草勢は「ソア」、「リュテス」並で、「キタワカバ」より劣る。越冬前の草勢は「ソア」より優れ、「リュテス」より劣り「キタワカバ」並である。
4. そばかす病には「ソア」よりやや高い抵抗性を示し、「キタワカバ」、「リュテス」並である。
5. 耐倒伏性は「ソア」、「キタワカバ」並で「リュテス」より劣る。草丈は「ソア」よりやや高く、「リュテス」よりやや低く、「キタワカバ」と大差がない。
6. 収量は「ソア」、「リュテス」より高く、「キタワカバ」並かやや低い。

栽培適地と奨励態度

全道一円に適する。栽培利用上の注意は、採草利用を主体とする。耐倒伏性がやや弱いため刈り遅れがないように注意する。

項目	品種名	北海道農試	中央農試	北見農試	根釧農試	天北農試	新得畜試	滝川畜試	試験年
2年目 乾物収量	アロー	105	95	101	84	96	111	96	1988
	リュテス	89	96	93	78	96	87	84	
	ソア	92	92	101	84	96	92	100	
	キタワカバ	1,025	1,505	1,018	662	1,210	825	1,337	
3年目 乾物収量	アロー	102	95	92	90	96	105	93	1989
	リュテス	92	104	79	74	81	80	87	
	ソア	75	87	89	85	87	94	95	
	キタワカバ	1,330	1,382	864	676	1,333	1,041	1,423	
3カ年 合計 乾物収量	アロー	103	95	97	87	98	108	92	1987~1989
	リュテス	91	100	87	78	91	84	83	
	ソア	85	92	97	84	93	94	96	
	キタワカバ	2,780	3,368	2,378	1,576	3,109	2,179	3,108	

注)「キタワカバ」は実収量 (kg/10a) で、その他は「キタワカバ」対比 (%) である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 63-64(1990)。

(4) 5444 (原名 5444) 1990年

登録番号：(北海道) アルファルファ準輸合第10号

来歴 本品種は、アメリカのPioneer Hi-Bred International Inc.が育成した品種で、12栄養系による合成品種である。ホクレン農業協同組合連合会が導入し、1987年から試験を行い、1990年に優良品種となった。

特性概要

1. パーティシリウム萎ちょう病に対しては「リュテス」以上の抵抗性であり、開花は「ソア」、「キタワカバ」並で「リュテス」より遅い。

2. 萌芽期は「ソア」、「リュテス」並で「キタワカバ」より遅く、萌芽良否は「ソア」並で「リュテス」よりやや優れ、「キタワカバ」よりやや劣る。
3. 早春の草勢は「ソア」、「リュテス」並で、「キタワカバ」よりやや劣る。越冬前草勢は「ソア」「キタワカバ」より優れ、「リュテス」よりやや劣る。
4. そばかす病には「ソア」よりやや高い抵抗性を示し、「キタワカバ」、「リュテス」並である。
5. 耐倒伏性は「ソア」、「キタワカバ」よりやや優れるが、「リュテス」より劣る。草丈は「ソア」よりやや高く「リュテス」、「キタワカバ」と大差がない。
6. 収量は「ソア」、「リュテス」より高く、「キタワカバ」

並かやや低い。
栽培適地と奨励態度

全道一円に適する。栽培利用上の注意は、採草利用を
主体とする。

項目	品種名	北海道農試	中央農試	北見農試	根釧農試	天北農試	新得畜試	滝川畜試	試験年
2年目 乾物収量	5 4 4 4	112	89	107	92	104	103	101	1988
	リュテス	89	96	93	78	96	87	84	
	ソア	92	92	101	84	96	92	100	
	キタワカバ	1,024	1,505	1,018	662	1,210	825	1,337	
3年目 乾物収量	5 4 4 4	105	105	99	85	96	91	100	1989
	リュテス	92	104	79	74	81	80	87	
	ソア	75	87	89	85	87	94	95	
	キタワカバ	1,330	1,382	864	676	1,333	1,041	1,423	
3カ年 合計 乾物収量	5 4 4 4	107	96	101	88	101	96	101	1987~1989
	リュテス	91	100	87	78	91	84	83	
	ソア	85	92	97	84	93	94	96	
	キタワカバ	2,780	3,368	2,378	1,576	3,109	2,179	3,108	

注) 「キタワカバ」は実収量(kg/10a)で、その他は「キタワカバ」対比(%)である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 65-66(1990)。

(5) ユーバー (原名 Euver) 1990年

登録番号: (北海道) アルファルファ準輪合第11号

来歴 本品種は、フランスのDesprez Florimond社が育成した品種で、「ヨーロッパ」由来の4栄養系からなる合成品種である。雪印種苗株式会社が導入し、1987年から試験を行い、1990年に優良品種となった。

特性概要

1. パーティシリウム萎ちょう病に対して抵抗性があり、開花期は「ソア」、「キタワカバ」より早く「リュテス」より遅い。
2. 萌芽期は「ソア」よりやや早く「リュテス」並で、「キタワカバ」より遅い。萌芽良否は「ソア」「リュテ

ス」よりやや優れ「キタワカバ」並である。

3. 早春の草勢は「ソア」、「リュテス」より優れ、「キタワカバ」よりやや劣る。越冬前草勢は「ソア」、「キタワカバ」より優れ「リュテス」並である。
 4. そばかす病には「ソア」よりやや高い抵抗性を示し、「リュテス」、「キタワカバ」並である。
 5. 耐倒伏性は「ソア」、「キタワカバ」より優れ「リュテス」並である。草丈は「ソア」、「リュテス」、「キタワカバ」より高い。
 6. 収量は「ソア」、「リュテス」より高く、「キタワカバ」並かやや低い。
- 栽培適地と奨励態度
全道一円に適する。栽培利用上の注意は、採草利用を主体とする。

項目	品種名	北海道農試	中央農試	北見農試	根釧農試	天北農試	新得畜試	滝川畜試	試験年
2年目 乾物収量	ユーバー	102	99	100	93	99	108	93	1988
	リュテス	89	96	93	78	96	87	84	
	ソア	92	92	101	84	96	92	100	
	キタワカバ	1,024	1,505	1,018	662	1,210	825	1,337	
3年目 乾物収量	ユーバー	96	104	91	100	86	103	91	1989
	リュテス	92	104	79	74	81	80	87	
	ソア	75	87	89	85	87	94	95	
	キタワカバ	1,330	1,382	864	676	1,333	1,041	1,423	

項目	品種名	北海道農試	中央農試	北見農試	根釧農試	天北農試	新得畜試	滝川畜試	試験年
3カ年 合計 乾物収量	ユーパー	99	103	97	95	94	106	92	1987~1989
	リュテス	91	100	87	78	91	84	83	
	ソア	85	92	97	84	93	94	96	
	キタワカバ	2,780	3,368	2,378	1,576	3,109	2,179	3,108	

注) 「キタワカバ」は実収量(kg/10a)で、その他は「キタワカバ」対比(%)である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 67-68(1990)。

(6) パータス (原名 Vertus) 1990年

登録番号: (北海道) アルファルファ準輪第12号

来歴 本品種はスウェーデンのW. Weibull AB社が、同社育成の品種「アルファ」を材料に集団育種法により育成した。雪印種苗株式会社が導入し、1987年から各種の試験を行い、1990年に優良品種となった。

特性概要

1. パーティシリウム萎ちょう病に対しては「リュテス」以上の抵抗性であり、開花は「ソア」よりやや早く、「キタワカバ」並で「リュテス」より遅い。
2. 萌芽期は「ソア」よりやや早く、「リュテス」並で「キタワカバ」よりやや遅く、萌芽良否は「ソア」並で「リュテス」よりやや優れ、「キタワカバ」より劣る。

3. 早春の草勢は「ソア」、「リュテス」より優れ、「キタワカバ」並である。越冬前草勢は「ソア」「キタワカバ」より優れ、「リュテス」並である。
4. そばかす病には「ソア」よりやや高い抵抗性を示し、「リュテス」、「キタワカバ」並である。
5. 耐倒伏性は「ソア」、「キタワカバ」より優れ、「リュテス」よりやや劣る。草丈は「ソア」、「リュテス」より高く、「キタワカバ」よりやや高い。
6. 収量は「ソア」、「リュテス」より高く、「キタワカバ」並かやや低い。

栽培適地と奨励態度

全道一円に適する。栽培利用上の注意は、採草利用を主体とする。

項目	品種名	北海道農試	中央農試	北見農試	根釧農試	天北農試	新得畜試	滝川畜試	試験年
2年目 乾物収量	パータス	97	101	99	97	106	113	91	1988
	リュテス	89	96	93	78	96	87	84	
	ソア	92	92	101	84	96	92	100	
	キタワカバ	1,024	1,505	1,018	662	1,210	825	1,337	
3年目 乾物収量	パータス	102	101	89	100	87	92	90	1989
	リュテス	92	104	79	74	81	80	87	
	ソア	75	87	89	85	87	94	95	
	キタワカバ	1,330	1,382	864	676	1,333	1,041	1,423	
3カ年 合計 乾物収量	パータス	99	103	96	95	96	103	90	1987~1989
	リュテス	91	100	87	78	91	84	83	
	ソア	85	92	97	84	93	94	96	
	キタワカバ	2,780	3,368	2,378	1,576	3,109	2,179	3,108	

注) 「キタワカバ」は実収量(kg/10a)で、その他は「キタワカバ」対比(%)である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 69-70(1990)。

(7) マキワカバ (系統名 月系1号) 1994年

登録番号：(北海道) アルファルファ北海道合第
4号 (農水省) アルファルファ農林合
4号

来歴 本品種は、農林水産省北海道農業試験場が多収で、パーテイシリウム萎ちょう病抵抗性を有し、多雪地帯向き品種の育成を目標として、個体検定及び後代検定により選抜された8栄養系により構成される合成品種である。1990年から北海道5場所、本州4場所において各種の試験を行い、1994年に優良品種となった。

特性概要

1. 草丈は「キタワカバ」「5444」より高く、「パートス」と同程度である。「キタワカバ」より一茎重が大きく茎は太い。秋の草型は「キタワカバ」よりやや直立で、「パートス」より匍匐型である。
2. 開花始は「キタワカバ」より3日、「5444」より4日早い極早生である。花色は紫色に偏り、「5444」、「パートス」と同程度で、開花程度はやや多い。耐病性は、「キタワカバ」に比較するとそばかす病、いぼ斑点病

及び両者を含む葉枯性病害に強く、パーテイシリウム萎ちょう病抵抗性品種である。

3. 越冬性は「キタワカバ」並で、耐寒性は「キタワカバ」の中に対しやや強、耐雪性は「キタワカバ」の中ないし強に対し強である。萌芽期は「キタワカバ」とほぼ同じ時期で、萌芽の良否は「キタワカバ」並かやや良く、春・秋の草勢、再生は「キタワカバ」並か優れ、秋季休眠性は「キタワカバ」より弱く、「パートス」より強い。倒伏程度は「キタワカバ」「5444」より少なく、「パートス」よりやや多い。

4. 収量は、「キタワカバ」に比べて全道平均で113%と多収で、番草別の収量比は「キタワカバ」と同程度である。粗蛋白質含有率、乾物分解率は「キタワカバ」と差がなく、混播適性は「キタワカバ」と同程度である。

栽培適地と奨励態度

北海道の多雪地帯に適する。栽培上の注意は、根粒菌の着生促進、定着時の雑草抑制、適期刈取りなどアルファルファ栽培の基本に留意する。

試験場所	試験年次	マキワカバ	ヒサワカバ	キタワカバ	5444
北海道農試	1990~1993	112	97	4,004	89
	1993	106	99	1,437	93
天北農試	1990~1993	108	104	2,659	87
	1993	114	101	721	74
新得畜試	1990~1993	122	114	2,242	96
	1993	121	114	634	82

注) 成績は総乾物収量で「キタワカバ」は実収量(kg/10a)、他は「キタワカバ」対比(%)である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成6年普及奨励ならびに指導参考事項, 39-43(1994)。

(8) ヒサワカバ (系統名 月系4号) 1994年

登録番号：(北海道) アルファルファ北海道交第
5号 (農水省) アルファルファ農林合
5号

来歴 本品種は、農林水産省北海道農業試験場と北海道立根釧農業試験場が共同し多収で、パーテイシリウム萎ちょう病抵抗性を有し、少雪地帯向き品種の育成を目標に、個体検定及び母系生産力検定により選抜された4母系の組み合わせによる母系選抜法によって育成された。1990年から北海道5場所、本州2場所において各種の試験を行い、1994年に優良品種となった。

特性概要

1. 草丈は「キタワカバ」に比較すると、1番草では同等かやや高く、2・3番草でやや高い。茎数は少なく、一茎重は大きく、茎は太い。葉は長さ、幅とも大きく、草型はやや直立型である。
2. 開花始は「キタワカバ」に比較すると1日、「5444」より2日早い早生である。花色は紫色に偏り、開花程度は並である。耐病性は「キタワカバ」に比較すると、そばかす病、いぼ斑点病、両者を含む葉枯性病害に対しては明らかに強く、葉枯病にはやや強く、パーテイシリウム萎ちょう病抵抗性品種である。
4. 越冬性は「キタワカバ」より道東でやや優れ、耐寒

性は「キタワカバ」の中に対してやや強で、耐雪性「キタワカバ」並の強である。

5. 萌芽性は「キタワカバ」とほぼ同じ時期で、萌芽の良否は道東で優れ、春・秋の草勢、再生も道東で「キタワカバ」より優れる。秋季の休眠性は「キタワカバ」、「5444」より弱い「バータス」より強い。耐倒伏性は「キタワカバ」、「5444」より強く、「バータス」よりやや弱い。
6. 収量は「キタワカバ」に比べ全道平均で110%と多収で、特に少雪地帯で多収を示した。乾物率は全体に「キ

タワカバ」並である。

7. 粗蛋白含有率は「キタワカバ」並、乾物分解率はやや高く、混播適性は「キタワカバ」と同程度である。

栽培適地と奨励態度

北海道の少雪地帯に適する。栽培上の注意は、凍上の恐れのある地域ではイネ科牧草との混播とする。また、根粒菌の着生促進、定着時の雑草の抑制などにより初年目の生育の確保、適期の刈取りなどアルファルファ栽培の基本に留意する。

試験場所	試験年次	ヒサワカバ	マキワカバ	キタワカバ	5444
北海道農試	1990~1993	97	112	4,004	89
	1993	99	106	1,437	93
北見農試	1990~1993	114	111	3,321	99
	1993	118	106	890	88
根釧農試	1990~1993	119	112	2,328	118
	1993	111	102	837	90

注) 成績は総乾物収量で「キタワカバ」は実収量(kg/10a)、他は「キタワカバ」対比(%)である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成6年普及奨励ならびに指導参考事項, 43-47(1994)。

4. チモシー

- (1) アッケシ (系統名 北見16号) 1992年

登録番号: (北海道) チモシー北海道合7号

(農水省) チモシー農林合5号

(種苗法) 第4131号

来歴 本品種は、北海道立北見農業試験場において熟期が中生の早で、斑点病に抵抗性を示し、再生に優れる品種の育成を目標に、北見農業試験場育成6品種・系統及び「ホクレン改良種」多交配後代に由来する7親栄養系による合成品種法により育成された。1988年から「北見16号」の系統名で各種の試験を行い、1992年に優良品種となった。

特性概要

1. 「ホクセン」に比較すると、1番草は草丈、稈長、穂長及び葉長が短く、葉幅が狭い。茎は細く、茎数、出穂茎割合が多い。草型は「ノサップ」並の直立型を示す。2番草は草丈が高く、茎数が多く、出穂・節間伸長茎割合が多い。
2. 出穂始は6月22日で「ホクセン」より2日早く、「ノサップ」に比較すると5日遅い中生の早である。斑点病に対して「ホクセン」「ホクシュ」「ノサップ」より

低い罹病程度を示し、すじ葉枯病黒さび病に対しては「ホクセン」よりやや高い罹病程度を示す。

3. 耐寒性は強、越冬性は「ホクセン」並で、萌芽後の生育は良好で、早春の草丈が高く、倒伏は「ホクセン」よりやや多く耐倒伏性はやや弱、1番草刈取り後の再生は初年目を除き「ホクセン」より良好で、永続性は「ホクセン」よりやや優れている。

4. 出穂始を考慮した収量は「ホクセン」よりやや多収で、2年目以降の乾物率は1.3番草が「ホクセン」並で、2番草は高く、アカクローバに対する競合力が優れている。

5. 放牧適性は「ホクセン」「ホクシュ」「ノサップ」と同程度で、飼料成分含有率はほぼ「ホクセン」と同程度である。

栽培適地と奨励態度

北海道に適する。栽培上の注意は、中生の早の品種として年間2回程度の採草利用を主体とするが、放牧にも利用出来る。アカクローバとの混播栽培における競合力は、「ホクセン」より優れているものの「ノサップ」ほど強くない。

試験場名	2～3年の合計乾物収量				試験年次
	アッケシ	ホクセン	ホクシュウ	ノッサブ	
根 釧 農 試	122	2,264	101	135	1989～1991
北 見 農 試	106	2,068	92	109	
新 得 畜 試	114	2,616	100	116	
天 北 農 試	107	2,265	93	108	
北海道農試	110	2,523	102	111	

注) 成績は「ホクセン」が実収量 (kg/10a) で他は「ホクセン」対比 (%) である。

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成4年普及奨励ならびに指導参考事項, 30-33(1992).
 2) 古谷政道等, 北海道立農試集報, 64, 91-105(1992).

(2) キリタップ (系統名 北見18号) 1992年

登録番号: (北海道) チモシー北海道合第8号
 (農水省) チモシー農林合6号
 (種苗法) 第4132号

来歴 本品種は、北海道立北見農業試験場において熟期が中生の晩で、再生が良好で、競合力の優れる多収品種の育成を目標に、北見農業試験場育成4系統及び海外から導入した6品種・系統に由来する10親栄養系による合成品種法により育成された。1988年から「北見18号」の系統名で各種の試験を行い、1992年に優良品種となった。

特性概要

- 「ホクセン」に比較すると、1番草は草丈がやや低く、稈長も低い。茎は細く、茎数が多く、出穂茎数はやや少ない。草型は着葉角度が狭い直立型を示す。2番草は草丈がやや高く、茎数・節間伸長茎割合が多く、出穂茎割合がやや多い。葉色、茎色ともに「ホクセン」より淡い。
- 出穂始は6月27日で「ホクセン」に比較すると3日遅く、「ノッサブ」に比べ10日遅い中生の晩の品種である。斑点病に対して「ホクセン」「ホクシュ」よりやや低い罹病程度を示し、すじ葉枯病に対しては「ホクセ

ン」並かやや高い罹病程度を示す。

- 耐寒性は強、越冬性は「ホクセン」並で、萌芽や早春の生育は良好で、早春の草丈が高い。倒伏は「ホクセン」並で、耐倒伏性は中である。1番草刈り後再生は初年目を除き「ホクセン」より良好で、永続性は「ホクセン」よりやや優れている。
- 一斉刈りにおける利用2、3年目の北海道平均収量は「ホクセン」対比108%であり、出穂始の差を考慮した「キリタップ」の収量は「ホクセン」より多収である。2年目以降の乾物率は、各番草とも「ホクセン」並である。アカクローバとの混播における「キリタップ」とアカクローバ合計収量は、ほぼ「ホクセン」並であるが、イネ科牧草の割合は後期年次ほど高い。
- 放牧適性は「ホクセン」「ホクシュウ」「ノッサブ」と同程度、飼料成分含有率は「ホクセン」と同程度である。

栽培適地と奨励態度

北海道に適する。栽培上の注意は、中生の晩の品種として年間2回程度の採草利用を主体とするが、放牧にも利用出来る。アカクローバとの混播栽培における競合力は、「ホクセン」より優れているものの「ノッサブ」ほど強くない。

試験場名	2～3年の合計乾物収量				試験年次
	キリタップ	ホクセン	ホクシュウ	ノッサブ	
根 釧 農 試	119	2,264	101	135	1989～1991
北 見 農 試	102	2,068	92	109	
新 得 畜 試	107	2,616	100	116	
天 北 農 試	110	2,265	93	108	
北海道農試	104	2,523	102	111	

注) 成績は「ホクセン」が実収量 (kg/10a) で、他は「ホクセン」対比 (%) である。

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成4年普及奨励ならびに指導参考事項, 34-36(1992).
 2) 古谷政道等, 北海道立農試集報, 64, 75-89(1992).

(3) SB-T-8710 (原名 SB-T-8710) 1994年
登録番号：(北海道)チモシー準北海道合第4号

来歴 本品種は雪印種苗株式会社において、道内及び海外導入16品種系統から選抜した7親栄養系による合成育種法により育成された。1991年より各種の試験を行い、1994年に優良品種となった。

特性概要

1. 出穂始と出穂期が「ノサップ」より2日遅い早生であり、1番草と2番草の出穂程度は「ノサップ」並である。
2. 越冬性は「ノサップ」並である。
3. 初期生育と早春及び晩秋の草勢は「ノサップ」並、

- 2番草と3番草の再生も「ノサップ」並である。
4. 斑点病及びすじ葉枯病耐病性は「ノサップ」並で、耐倒伏性は「ノサップ」よりやや優れる。
5. 草丈は1番草、2番草及び3番草のいずれも「ノサップ」並である。
6. 年間合計乾物収量は「ノサップ」並であるが、2番草の乾物収量は「ノサップ」よりやや高く、3番草はやや低い。
7. 永続性は「ノサップ」並である。

栽培適地と奨励態度

全道一円に適する。栽培利用上の注意は、採草用として利用する。

試験場名	1991年		1992年		1993年		合計	
	SB-T-8710	ノサップ	SB-T-8710	ノサップ	SB-T-8710	ノサップ	SB-T-8710	ノサップ
根 釧 農 試	88	233	99	1,479	101	1,326	99	3,037
北 見 農 試	89	349	98	1,016	100	1,208	98	2,572
新 得 畜 試	101	326	95	1,037	100	963	98	2,326
天 北 農 試	103	287	106	1,214	103	987	105	2,488
滝 川 畜 試	103	214	99	1,676	99	1,510	99	3,400
中 央 農 試	130	186	98	1,471	101	1,145	101	2,801
全 平 均	100	266	99	1,316	101	1,190	100	2,771

注) 成績は乾物収量で「ノサップ」は実数 (kg/10a)、他は「ノサップ」対比 (%) である。

参照 1) 北海道農政部編、平成6年普及奨励ならびに指導参考事項、55-57(1994)。

(4) オーロラ (系統名 MT-1-85) 1994年
登録番号：(北海道)チモシー準北海道交第5号

来歴 本品種は三井東圧化学株式会社が、道内及び海外導入12品種系統を母材とする91個体から集団選抜法により育成した。1991年から「MT-1-85」の系統名で農林水産省北海道農業試験場ほか道立6農畜試において試験を行い、1994年に優良品種となった。

特性概要

1. 出穂始と出穂期が「ノサップ」より1日早い早生種で、1番草と2番草の出穂程度は「ノサップ」並である。
2. 越冬性は「ノサップ」並で、初期生育は「ノサップ」

- より優れ、早春と晩秋の草勢は「ノサップ」並である。
3. 斑点病及びすじ葉枯病耐病性は「ノサップ」並である。
4. 耐倒伏性は「ノサップ」より優れる。
5. 1番草、2番草及び3番草の草丈は「ノサップ」並、年間合計乾物収量は「ノサップ」並であるが、2番草と3番草の乾物収量はやや低い。
6. 永続性及びアカクローバとの混播適性は「ノサップ」並である。

栽培適地と奨励態度

全道全域に適する。栽培利用上の注意は、採草用として利用する。

試験場名	1年目		2年目		3年目		3年間合計	
	オーロラ	ノサップ	オーロラ	ノサップ	オーロラ	ノサップ	オーロラ	ノサップ
北海道農試	-	-	102	1,238	99	841	-	-
中央農試	111	186	104	1,471	97	1,145	102	2,801
滝川畜試	129	214	99	1,676	91	1,510	97	3,400
天北農試	116	287	107	1,214	101	987	106	2,488
新得畜試	110	326	99	1,037	98	963	100	2,326
北見農試	103	349	96	1,016	99	1,208	98	2,572
根釧農試	143	233	91	1,479	98	1,326	98	3,037
平均	117	266	100	1,304	97	1,140	100	2,771

注 1) 試験年次は1991年～1993年である。

2) 成績は乾物収量で「ノサップ」は実数(kg/10a), 他は「ノサップ」対比(%)である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成6年普及奨励ならびに指導参考事項, 57-60(1994)。

(5) SB-T-8704 (原名 SB-T-8704) 1995年
登録番号: (北海道) チモシー準北海道合第6号

来歴 本品種は雪印種苗株式会社が、国内育成や海外導入の8品種を供試し、個体選抜試験、栄養系評価試験を実施して6親栄養系を選抜し、合成品種法により育成した。1991年から道内6場所で試験を行い1995年に優良品種となった。

特性概要

1. 開花始と出穂期が「ホクセン」とほぼ同じ中生である。出穂程度は、播種年には「ホクセン」よりやや高く、播種後2年目以降の1番草は「ホクセン」並で、2番草は「ホクセン」より高い。

2. 越冬性は「ホクセン」並、初期生育と早春及び晩秋の草勢は「ホクセン」並で、2番草の再生は「ホクセン」よりやや良好である。

3. 斑点病の抵抗性は「ホクセン」並で、すじ葉枯病の抵抗性は「ホクセン」よりやや弱い。

4. 耐倒伏性は「ホクセン」並である。

5. 草丈は1番草、2番草ともに「ホクセン」並で、収量は「ホクセン」より多収で、特に2番草が多収であり、永続性は「ホクセン」並である。

栽培適地と奨励態度

全道一円に適する。栽培利用上の注意は、採草用として利用する。

試験場名	1年目		2年目		3年目		3年間合計	
	SB-T-8704	ホクセン	SB-T-8704	ホクセン	SB-T-8704	ホクセン	SB-T-8704	ホクセン
北海道農試	106	298	105	984	109	831	107	2,113
滝川畜試	106	503	108	1,254	105	1,255	106	3,016
天北農試	128	210	106	1,284	105	1,133	107	2,627
新得畜試	104	305	108	986	116	946	111	2,236
北見農試	116	242	106	963	119	810	113	2,014
根釧農試	107	177	119	1,118	109	1,132	114	2,427
平均	110	290	109	1,098	110	1,018	109	2,405

注 1) 試験年次は1991年～1994年である。

2) 成績は乾物収量で「ホクセン」は実数(kg/10a), 他は「ホクセン」対比(%)である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成7年普及奨励ならびに指導参考事項, 30-31(1995)。